徒然日記

「たとえコロナ禍でも」　　　　武光ヘルパーステーション　　田中悠輝

　日本で新型コロナウイルスが確認されて早２年半。感染状況も波があり中々収束しない状況の中、自身の感染にも人一倍注意しなければならない介護の仕事。小学生の子供達にも友達を家に呼んだり、友達の家に遊びに行ったりしないようお願いしています。特に夏休みの今、遊びに行きたいだろうなと申し訳なく思っていたある日、娘の部屋から大きな話し声がしているのに気づきました。覗いてみるとイヤホンをつけてゲームをしている娘の姿がありました。オンラインのゲームで友達と遊びながら、夏休みの宿題の事や家での現状報告などの雑談で盛り上がっていた様です。後で聞いてみると、家で使っていないマイク付きイヤホンを棚の中から探して自分でゲーム内での設定を行い、友達とは集合時間を決めてネット上で待ち合わせをしているとの事。コロナ感染者増加に伴い直接会えなくても、友達と遊んだり会話が出来るように自分で出来る事の中から考えて行動した娘に感心する出来事でした。以前と比べて出来ない事が多い中、たとえコロナ禍でも自身で出来る事を探しながら、今まで以上に利用者様に満足のいくサービスを提供していかなければと思いました。